

「寛骨臼移動術（SPO）患者における筋力・歩行能力の年齢による比較」について

加古川中央市民病院リハビリテーション室では、現在、当院にて寛骨臼移動術（SPO）が施行された患者さんを対象に表題の研究を実施しております。その詳細は下記の通りです。

尚、この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

当院では臼蓋形成不全に対して関節温存術である寛骨臼移動術（spherical periacetabular osteotomy：SPO）が施行されています。SPOは若年症例に多く施行されてきた術式ですが、近年中高年症例も増加しています。

本邦では寛骨臼回転骨切り術（rotational acetabular osteotomy:RAO）の中高年期の術後成績の報告は散見されますが、SPOでは少ないです。

今回、SPO後の股関節外転筋力および膝関節伸展筋力、歩行能力の回復過程を年齢別（40歳未満の方と40歳以上の方）に把握することで、患者さんの年齢に応じた術後レジスタンストレーニング※の負荷量設定や、トレーニング内容の理学療法プログラム立案につながると考えます。

※レジスタンストレーニング：筋力や筋持久力を向上させるために、筋肉に抵抗（レジスタンス）をかけて行うトレーニング

【研究期間】

研究期間：加古川中央市民病院長承認日 ～ 西暦2026年3月31日

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

身長、体重、年齢、性別、股関節外転筋力、膝関節伸展筋力、10m歩行テストによる歩行所要時間

【個人情報保護の方法】

この研究ではプライバシー保護に配慮し、患者さんの情報は直ちに識別することができないように研究対象者識別番号リストを作成して加古川中央市民病院の鍵のかかる保管庫で管理します。研究成果を報告する時も個人が識別されないように行います。患者さんの個人情報については、本研究に関わる全ての研究者が守秘義務を順守するように徹底いたします。個人情報を外部機関へ提供することはありません。患者さんの個人情報は研究責任者が責任をもって保管します。

【試料・情報等の保存・管理責任者】

加古川中央市民病院 リハビリテーション室 責任者氏名：小西 佑磨

【データ提供による利益・不利益】

本研究では既存情報を用いた観察研究であり、研究対象者に直接の利益、不利益は生じません。

利益：通常診療の情報を用いており、データをご提供頂いた患者さんの個人には特に利益になるようなことはありません。本研究への参加を通じて、同じあるいは類似の疾患の皆さんの治療後の経過予測や機能予後の向上に役立つ可能性があります。

不利益：診療録からのデータのみ利用するため特にありません。

【登録終了後のデータおよび試薬の取り扱いについて】

本研究において取得したデータ等は、研究期間中は加古川中央市民病院において厳重に保管いたします。研究終了後も少なくとも本研究の終了報告日から5年を経過した日または本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間、当院内のデータベース内のみで管理し、プリントアウトや外部持ち出しは行いません。

【研究成果の公表について】

研究成果は学術目的のための論文や学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定される情報は公表いたしません。

【研究への参加取り止め】

いつでも可能です。研究参加取り止めの申し出を受けた場合、それ以降患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかし、取り止めの申し出をされた時点で、すでに研究成果が学会や論文などで公表されていた場合は廃棄できませんのでご了承願います。なお、同意の拒否および撤回による不利益はありません。

【問い合わせ窓口】

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 リハビリテーション室
小西 佑磨
連絡先：079-451-5500